

るが、現在の母子保健で認められる課題に対応するために必要な新たな取り組みも含まれている。したがって、「手引き」の内容を実現するためには、他機関との連携を含めた地域保健の体制整備が必要であり、「健やか親子21（第2次）」の達成に向けた関係各部署の協力が望まれる。市町村、都道府県等が、乳幼児健診事業の実施や評価を検討する際に、既存の書籍等からの情報と相補的に「手引き」を利用し、質の高い母子保健サービスが提供されることを望みたい。

E. 結論

「考え方」の公表に併せて、乳幼児健診や保健指導に関する地方行政機関の課題と要望を調査した。モデル地域での具体的な実践活動だけでなく、得られた調査結果を参考とし、関連学会や関係団体と情報共有をすることで、「手引き」を作成した。「手引き」の活用が、「健やか親子21（第2次）」の達成に資することを期待する。

【参考文献】

1) 厚生労働省. 健やか親子21(第2次)検討会報告書. 2014.

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000041585.html> (2015年3月29日アクセス確認)

2) 山崎嘉久 他. 乳幼児期の健康診査と保健指導に関する標準的な考え方. 平成25年度厚生労働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業)「乳幼児健康診査の実施と評価ならびに多職種連携による母子保健指導のあり方に関する研究」(研究代表者: 山崎嘉久).

http://www.achmc.pref.aichi.jp/sector/hoken/information/file/screening_manual_standardview/manual06.pdf

(2015年3月29日アクセス確認)

3) 生駒市乳幼児健康診査検討委員会. 生駒市における乳幼児健康診査のあり方に関する提言.

<http://www.city.ikoma.lg.jp/kashitsu/04100/08/documents/0108.pdf>

(2015年3月29日アクセス確認)

4) 横山徹爾 他. 母子健康手帳の交付・活用の手引き. 平成23年度厚生労働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業)「乳幼児身体発育調査の統計学的解析とその手法及び利活用に関する研究」(研究代表者: 横山徹爾)

5) 厚生労働省. 子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について(第10次報告). 2014. <http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/00058559.pdf>

(2015年3月29日アクセス確認)

6) 青森県. 市町村と児童相談所の機関連携対応方針(平成25年7月改訂).

<http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenko/kodomo/files/2013-0902-1129.pdf>

(2015年3月29日アクセス確認)

7) 大阪府. 大阪府における乳幼児健康診査未受診児対応ガイドライン(平成26年11月).

http://www.pref.osaka.lg.jp/hodo/attach/hodo-18130_4.pdf

(2015年3月29日アクセス確認)

8) 児童虐待の防止等のための医療機関との連携強化に関する留意事項について(平成24年11月30日雇児総発1130第2号、雇児母発1130第2号)

表 1) 「手引き」の活用に期待する意見

回答者の 所属別件数	内容
5 市町	これまで、標準的な乳幼児健診や問診項目が示されていないかった。
3 保健所	「手引き」の作成により、統一した対応と各地域の比較ができる。
4 市町	評価の視点や保健指導のポイントがまとめられており、現場で活用しやすい。
3 保健所	
2 市町	参考となる事例、通知や「健やか親子21（第2次）」の評価指標が掲載されお
3 保健所	り、事業の根拠を確認したり、事業内容の検討に活用しやすい。
2 市町	未受診者の安全な現状把握ができない場合の対応は、事前に決めておくことが重要である。「考え方」に記された内容を参考としたい。
2 市町	乳幼児健診後のカンファレンスで、支援が必要な者をリストアップしている。現在は、支援方針を各担当者の判断に任せることが多いが、乳幼児健診の目的や評価を考えると、事業管理者が把握することが重要と認識した。
1 町	乳幼児健診の総合的な判定について、明確な基準がなかったので参考にしたい。
1 保健所	
2 保健所	乳幼児健診が委託・縮小される自治体が多いなかで、集団健診を実施する意義や目的を提示する必要がある。厚生労働省と研究班が「考え方」を提示したことに意義があり、参考になる。

「手引き」の作成・活用に期待する意見 43 件のうち、複数の自治体あるいは保健所から得られた意見を示した（件数は延べ数）。

表 2) 「考え方」の各項に対する要望・課題

回答者の 所属別件数	内容
第 2 章 乳幼児健診の事業計画	
10 市村	乳幼児健診の実施年齢や評価項目の統一、及び健診従事者の定期的研修などによる標準化した体制の整備が必要である。
3 市	集団健診と医療機関委託（個別）健診を比較して、留意点を示して欲しい。
第 4 章 健康診査の実施	
（事前に把握された情報の整理）	
2 市	健診従事者の役割について、明確に記載して欲しい。
1 市	個別健診では事前の情報共有は難しく、集団健診では時間の制約と医師への
1 保健所	伝え方が課題である。情報共有の推奨方法を具体的に示して欲しい。
（問診項目）	
1 県・2 市	全国統一の標準化した問診項目を、具体的に提示して欲しい。
1 保健所	
1 市	診察の場で診るべき項目や、重要ではなくなった問診項目を提示して欲しい。
1 保健所	
1 町	問診項目の妥当な数に関する意見
1 保健所	（20 項目前後が妥当とするものと、30 項目以上が望ましいとする、双方の意見）
（発育と発達の評価）	
6 市	発達障害を早期発見する問診などは自治体間の差が大きく、統一した方が良い。
3 市	1 歳 6 か月児と 3 歳児の発育評価は、肥満度とカウプ指数のどちらが良いのか。
（疾病のスクリーニングの判定）	
3 県・14 市	各項目を判定する際の基準や注意事項を具体的に示して欲しい。
1 保健所	
3 市	歯科、口腔機能項目の記載が少ない。
2 市村	乳幼児健診のスクリーニング項目が疾病に偏っている。
（保健指導・支援の判定）	
1 村	子育て支援の必要性について、区分の開発、判断の参考となる資料などを提示す
3 保健所	ることが望ましい。
（健診時の記録と管理）	
2 市	妊娠期や個別健診を考慮した、新しいデータベースの開発が必要。
3 市町	30 年以上の長期間、乳幼児健診の記録を紙媒体で管理することは難しく、電子媒体ではサーバー容量等の限界がある。
（健診後のカンファレンス）	
2 市	実務上、時間の制約があり、乳幼児健診の質の向上を目的に話し合う機会はないので、工夫や事例を紹介して欲しい。

(表 2 の続き)

回答者の 所属別件数	内容
<u>第 5 章 育児状況の把握</u>	
(健診未受診者への対応の標準化)	
4 市	参考となる対応方針を具体的に示して欲しい。
3 市	個人情報保護法を考慮すると、異なる機関が連携した対策が困難であり、国や都道府県のバックアップが必要である。
(乳児家庭全戸訪問事業で把握すべき内容)	
2 市	乳児家庭全戸訪問事業の具体的な体制を挙げて欲しい。
<u>第 6 章 保健指導・支援</u>	
(保健指導のポイント)	
4 市町	健診フォロー時期 (5 歳児健診を含む) の保健指導のポイントが加われば、健診
1 保健所	実施後のフォローアップにも活用ができて良い。
1 市	口腔機能や歯科に関する記載が少ない。
2 保健所	
(虐待予防の視点からの保健指導)	
1 市	他機関と連携した児童虐待予防、健診従事者間の情報共有体制、親に対する相談
1 保健所	体制の充実が課題である。
(乳幼児健診における発達支援)	
2 市	社会性の発達に関する啓発のポイントを知りたい。
<u>第 7 章 健康診査事業の管理と評価</u>	
(健診実施後のフォローアップ)	
5 市	人員が不足しており、標準的な乳幼児健診とフォローアップ、精度管理が可能な人員と体制の整備が必要である。
<u>第 8 章 地域の健康状況の把握と評価</u>	
1 市	乳幼児健診のデータの活用や、市町村から親子へ情報を還元した具体的な事例を
1 保健所	紹介して欲しい。

「手引き」の作成における要望や現場の課題を示す 162 件の意見うち、複数の自治体あるいは保健所から得られた意見を示した (件数は延べ数)。

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
山崎嘉久	親子保健	鳩野洋子 島田美喜	公衆衛生実践 キーワード	医学書院	東京都	2014	71-81
草野恵美子	家庭訪問における基本的技術	岩本里織, 北村真弓他	公衆衛生看護 活動技術演習 (第2版)	クオリテ ィケア	東京都	2014	2-10
草野恵美子	母子保健・子育て支援	岡本玲子, 荒木田美香 子他	公衆衛生看護 学テキスト第 3巻公衆衛生 看護活動	医歯薬出 版	東京都	2014	1-15
石川みどり	栄養教育のマネ ジメントサイク ル	武見ゆかり, 赤松利 恵	栄養教育論, 理論と実践	医歯薬出 版	東京都	2014	51-66
石川みどり	栄養教育に活用 する基礎知識と 教材	春木 敏	栄養教育論第 3版	医歯薬出 版	東京都	2014	141-148
石川みどり		手嶋哲子, 田中久子	公衆栄養学実 習	同文書院	東京都	2014	63-76
佐藤拓代	・子ども虐待対 応の基本的な考 え方 ・子ども虐待対 応の枠組み ・市区町村の子 育て支援策 ・市区町村の母 子保健部門との 連携 ・特定妊婦や飛 び込み出産への 対応	母子愛育会 日本子ども 家庭総合研 究所	子ども虐待対 応の手引き 平成25年8月 厚生労働省の 改正通知	有斐閣	東京都	2014	7-8 12-14 30-32 225-228 261-264
石川みどり	栄養教育のマネ ジメントサイク ル,	武見ゆかり, 赤松利 恵	栄養教育論, 理論と実践,	医歯薬出 版	東京	2014	51-66
石川みどり	栄養教育に活用 する基礎知識と 教材	春木敏	栄養教育論	医歯薬出 版	東京	2014	141-148

佐藤拓代	地域における保健活動と児童虐待防止	保育士養成講座編纂委員会	新保育士養成講座第7巻「子どもの保健」改訂1版	全国社会福祉協議会	東京都	2013	21-28
板橋家頭夫・佐藤拓代他	ふたごの子育て～多胎の赤ちゃんとその家族のために～	末原則幸, 大岸弘子指導 母子衛生研究会	ふたごの子育て～多胎の赤ちゃんとその家族のために～	母子保健事業団	東京都	2013	4-72
板橋家頭夫・佐藤拓代他	小さく生まれた赤ちゃん～赤ちゃんの健やかな成長のために～	楠田聡指導 母子衛生研究会	小さく生まれた赤ちゃん～赤ちゃんの健やかな成長のために～	母子保健事業団	東京都	2013	6-64
三好美紀, 石川みどり	栄養	日本国際保健医療学会	国際保健医療学第3版	杏林書院	東京	2013	120-124
佐藤拓代	地域における保健活動と児童虐待防止	全国社会福祉協議会	改訂新保育士養成講座	全国社会福祉協議会	東京	2012	21-28

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻(号)	ページ	出版年
山崎嘉久	乳幼児健診のデータを活用し、母子保健活動を評価する	月刊母子保健	662	4-5	2014
山崎嘉久	ふだんのかかわりから始める子ども虐待防止	日本小児科医学会会報	47	191-192	2014
山縣然太郎	乳幼児健康診査のデータ活用	保健医療科学	63	27-31	2014
佐藤拓代	妊娠期からの虐待予防	世界の児童と母性	76	23-34	2014
佐藤拓代	地域で取り組む虐待への対応—大阪府	周産期医学	44	69-72	2014
佐藤拓代	虐待予防～妊娠中からの虐待予防について学ぶ～	ぎふ精神保健福祉	50	53-64	2014
佐藤拓代	未受診児への対応と課題	月刊母子保健	662	8	2014
佐藤拓代	望まない妊娠と虐待のリスク	月刊母子保健	668	8	2014
佐藤拓代	思いがけない妊娠の相談窓口「にんしんSOS」の活動	母子保健情報	67	47-50	2013
大澤絵里, 石川みどり他	子どもに対する高脂肪・糖分・塩分食品および飲料のマーケティング規制に関する国際的動向	栄養学雑誌	7	147-154	2014
丸山進一郎	乳幼児の歯科口腔医療Q&A 4歳頃～6歳頃（乳臼歯列完成期）	日本歯科評論	855	121-127	2014
山崎嘉久	乳幼児健診の意義 発達支援と子育て支援そして虐待予防へ	小児看護	36(3)	300-307	2013
山崎嘉久	子育て支援、虐待予防としての健診の役割	小児内科	45(3)	510-514	2013
小澤啓子、武見ゆかり、衛藤久美、田中久子、藤井仁、石川みどり、横山徹爾	壮中年期において野菜摂取の行動変容ステージおよび野菜料理摂取皿数は野菜摂取量の指標となり得るか	栄養学雑誌	71(4)	213-224	2013

石川みどり、横山徹爾、村山伸子	地理的要因における食物入手可能性と食物摂取状況との関連についての系統的レビュー	栄養学雑誌	71(5)	290-297	2013
石川みどり	管理栄養士・栄養士として健康づくりに寄与するために健康日本21（第2次）を理解する	臨床栄養	122(3)	314-318	2013
丸山進一郎	シリーズ「歯科検診を考える」①	小児歯科臨床	18(4)	74-76	2013
丸山進一郎	シリーズ「歯科検診を考える」②	小児歯科臨床	18(5)	80-82	2013
丸山進一郎	シリーズ「歯科検診を考える」③	小児歯科臨床	18(6)	92-97	2013
丸山進一郎	シリーズ「歯科検診を考える」④	小児歯科臨床	18(7)	73-76	2013
丸山進一郎	シリーズ「歯科検診を考える」⑤	小児歯科臨床	18(8)	71-74	2013
丸山進一郎	シリーズ「歯科検診を考える」⑥	小児歯科臨床	18(9)	79-82	2013
丸山進一郎	シリーズ「歯科検診を考える」⑦	小児歯科臨床	18(10)	87-89	2013
丸山進一郎	シリーズ「歯科検診を考える」⑧	小児歯科臨床	18(11)	61-63	2013
山崎嘉久	乳幼児健診における新しい評価の視点	日本小児科医学会会報	43	155-159	2012
山崎嘉久	乳幼児健診における子育て支援と発達支援～医師の役割について	愛知県小児科医学会会報	95(5)	18-22	2012
山崎嘉久	支援が必要な子どもと家族への対応～ふだんのかかわりから始める地域からの支援	小児保健わかやま	9	16-19	2012

平成26年度厚生労働科学研究費補助金
成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業
「乳幼児健康診査の実施と評価ならびに
多職種連携による母子保健指導のあり方に関する研究」
平成24年度～平成26年度 総合研究報告書

発行日 平成27(2015)年3月

編集・発行 山崎 嘉久(あいち小児保健医療総合センター 保健センター)
「乳幼児健康診査の実施と評価ならびに
多職種連携による母子保健指導のあり方に関する研究」班

研究代表者 山崎 嘉久
〒474-8710 愛知県大府市森岡町七丁目 426 番地
あいち小児保健医療総合センター 保健センター保健室
TEL: 0562-43-0500 FAX: 0562-43-0504
E-mail: hoken_center@mx.achmc.pref.aichi.jp

